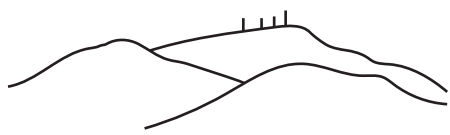


Youth Manna

2021/9/27 - 10/3



マルコ 1:35

さて、イエスは朝早く、まだ暗いうちに起きて寂しいところに出かけて行き、そこで祈っておられた。

2021/9/27(月)

□ーマ 3:21-31

23節「すべての人」の中に自分も入っていると思うかな？今一度、この福音をしっかり理解して心に刻もう！

- ①自分が罪人であること。
- ②私たちの行いではなく、イエス様を信じることによって神様の前に義とされること。

私たちが「イエス様を信じる」とはどういう意味だろう？それは、イエス様が私たちの罪が赦されるために十字架にかかれ死んだこと、そして私たちがイエス様と新しいいのちに歩むために、よみがえられたことを本当に信じるということだよ！

今日は 23,24 節を何度も読んで暗記しよう！そして、神様への感謝と、まだ救われていない家族友人のために祈ろう！！

2021/9/28(火)

□ーマ 4:1-12

3:28 で、人は律法の行いではなく、信仰によって義と認められるとパウロは書いていたね。律法を守ることを追求していた当時のユダヤ人にとって、パウロのこのことばは今まで聞いたことのない教えでした。でも実は、アブラハムの時から神様が明らかにしていたことだとパウロは説明しています。神様の救いの計画がずっと変わらずに、最初から計画されていたことって本当にすごいことだね！

アブラハムの時代から、そしてこの世界の初めから(エペソ 1:4)、神様が私たちの救いを計画されていたことを喜ぼう！私たちが信じて救われるために、ご自分をささげられたイエス様に感謝しつつ今日を歩もう！

2021/9/29(水)

□ーマ 4:13-25

パウロはこの箇所、アブラハムの信仰がどういったものであったかを記し、行いではなく信仰による義を説明している。アブラハムがイサクを献げようとしたとき、アブラハムは主イエス・キリストの十字架と復活への信仰を先取りしたと言える。全能の神は死者を生かすことができると信じたのである。また、アブラハムにイサクが生まれることについて言及しているが、彼は、不信仰になり神の約束を疑うようなことはなく、その信仰が義と認められたとされている。私たちも、時に神の約束を疑い、信仰が弱まるような時があるが、死者をよみがえらせた神ご自身が私たちの信仰を強めてくださる。

私たちが義と認められるために死者の中からよみがえられた主イエスに感謝し、主への信仰がますます強められるよう祈ろう！

2021/9/30(木)

□ーマ 5:1-11

3v「苦難さえも喜んでいきます…」

私たちが生きていく上で試練は付き物である。大きかろうが小さかろうが苦しいことはあり、苦しみを通らない人生はない。

しかし、(4v~) 苦難が忍耐を生み出し、忍耐が練られた品性を生み出し、練られた品性が希望を生み出す。そして、その希望は失望に終わることがなく、私たちに与えられた聖霊によって、神の愛が私たちに注がれていることを知ることが出来る。

神様の愛は、昔も今も変わらず私たちに注がれている。私たちが選んだのではなく、神様が私たちを選ばれた。感謝しよう！！

2021/10/1(金)

□ーマ 5:12-21

神様が創造された世界には罪がありませんでした。しかし、最初の人であるアダムが神様のことばに背いて罪を犯し、死が僕らを含めたすべての人に広がってしまったんだ。

一人の人(アダム)によって罪が世界に入ったのと同様に、一人の人(イエス・キリスト)の義の行為(十字架)によっていのちが与えられました。聖書を読むと、私たちが罪人であることがわかるね。それは私たちが自分の罪に気づいて悔い改め、イエス様を信じることによって永遠のいのちに導かれるためだよ。

永遠のいのちとは、イエス様を知ることです(ヨハネ 17:3)。ただ名前を知っているだけでなく、イエス様との親しい関係の中に永遠のいのちがあるよ！今日、イエス様にとどまって生きよう！

2021/10/2(土)

□ーマ 6:1-14

イエス様から与えられた救いがどんなものか今日のところでは書かれているね。イエス様が十字架にかかって死んでくださり、よみがえったこと。その一回によって私たちの中の罪が、過去や未来を超えて赦されたんだ。だから私たちはもうもう罪に支配される必要はなくて、神様であって生きる者となったんだと受け取ろう！

もちろん、毎日の中で自分の罪に気付いたり、罪だとわかっていてもやってしまったりすることもあるかもしれない。そんな時はその罪にとどまるのをやめて、神様の恵みの下にいることを思い出そう！そして悔い改めて、また新しいのちと赦しを受け取っていこう、受けとりに続けていこう！

2021/10/3(日)

□ーマ 6:15-23

罪から解放されたクリスチャンは恵みの下にいるからといって、罪を犯してはなりません。この福音を信じた人は新しい立場を得て、罪からイエス様へと仕える相手が変わったからです。それが「従順の奴隷」、「義の奴隷」ということばで表されています。従順の奴隷は聖なる者とされ、永遠のいのちに行き着きますが、罪の奴隷は死という終着点に行き着くだけで何の実も得ることはありません。罪の奴隷の行く手に待ち構えている死は、その人が受けるべき報いです。しかしイエス様を信じて罪から解放された者には永遠のいのちが用意されています。それは報酬ではなく賜物であり、神様からの贈り物です。

私たちは日々誰に従っているでしょうか？はっきりと、イエス様に従うことを告白して歩もう！